第28回自死遺族パネル展

「私の中で今、生きているあなた」

150枚パネルの展示内容

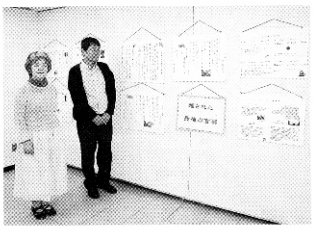
同時開催：メンタルヘルスの現実

入場無料

11月11日から12日まで 旭川市民会館展示室

自殺の背景知って

旭川 パネル展とミニ講演



パネル展を開く伊福さん（右）とゲスト講演する田中さん（旭川市民文化会館で）

自殺の原因には社会的な問題があることや、差別など遺族が直面する困難な問題を知ってもらおうと、パネル展「私の中で今、生きているあなた」が11、12日、旭川市民文化会館で開かれる。

大阪市のNPO法人「働く者のメンタルヘルス相談室」＝伊福達彦理事長（67）＝の主催。自殺した人約50人の親や子供、同僚、上司らに書き残した手紙や、肉親を自殺で失った遺族の言葉などを記したパネル150枚を展示する。それとともに、自殺や自殺につながることの多いうつ病の原因が、決して自殺者個人にあるのではなく、過労やパワハラ、いじめなど職場や社会の側に問題があることをデータで説明する。

ゲストとして全国自死遺族連絡会（仙台市）代表の田中幸子さん（62）が会場でミニ講演する。田中さんは警察官の息子の自殺を機に、各地の遺族の相談に応じたり、行政への働きかけを行ったりしている。田中さんによると、自殺者が住んでいた賃貸住宅の家主から高額の補償や改修費を要求されるなど、「遺族は2次被害に直面し、様々な差別にも遭っている」という。

展示は午前10時～午後5時（12日は午後3時まで）。

25 旭川・上川 2011年（平成23年）11月11日（金曜日） 北

うつで自殺50人の苦悩

遺書や遺族の手記

旭川 きょう、あすパネル展

過労やパワーハラスメントでうつ病になり自殺したたちの遺書や遺族の手記を集めた自死遺族パネル展「私の中で今、生きているあなた」が11、12日の両日、旭川市民文化会館（7の9）で開かれる。道内では2年前の札幌に続き2カ所目。息子を自殺で亡くし自死遺族の自助組織づくりを進める仙台市の田中幸子さん（62）が、自殺を生む社会状況の改善を訴える。

大阪市のNPO法人「働く者のメンタルヘルス相談室」が主催し、2007年4月から全国で28回開き計約9500人が来場。旭川ではパネル約150枚を展示し、自殺者の生前の写真50枚や遺書30件、遺族50人の無念の思いを紹介している。

この中で、自殺した男性会社員（43）は遺書に「怒られるのも言い訳するのも疲れました」と記し、職場の厳しさを物語る。同じく造船技師（46）は、遺書で妻に「本当に申し訳ない。ばかな夫を持たせてごめん」と無念さをにじませた。自殺で父を亡くした女性は「うつ病の父になぜ優しくできなかったのか。なぜ『愛している』と伝えられなかったのか」と自分を責める。

特集コーナーでは、1998年から自殺者が急増し毎年3万人を超えた背景に、リストラや労働時間の増加といった社会要因があることを訴える。

警察官の息子健一さんを2005年に自殺で亡くした田中さんは会場に常駐し、過労自殺問題を訴える。

田中さんは健一さんの死の翌年、自殺者遺族が助け合う「藍の会」を全国で初めて仙台で設立し他地域でも自助組織づくりを推進。

全国自死遺族連絡会もつくり、13日には札幌で道内初の自助組織が発足するのを支援する。「息子は重大事故の責任者になり4カ月半1度も休みなしで、うつ病になった。会場に来て命のメッセージに耳を傾け、自殺の問題を考えて」と訴えている。パネル展は午前10時～午後5時（12日は午後3時）。

（太田一郎）

息子の健一さんのパネルの横で「うつ病を生む職場を無くす対策が必要」と訴える田中さん